

農業土木学 教育コース

Course of
Irrigation, Drainage and
Reclamation Engineering

農業土木学教育コースは、「豊かで安心して農業ができる農村環境」,
「人々の暮らしと自然生態系が調和した環境」,「自然災害に強い地域社会」を
実際に創造し,守るための技術を身に付けたい人におすすめの教育コースです。

「生命(いのち)を支える
農業土木」

三重大学

5つのPoint

Point 2 分野横断的カリキュラム

土木工学の専門科目群を柱にして,カリキュラムは

**農場実習～土木実験
理系的科目～文系的科目**

と幅広く,コース選択者の多くが物理未修者です。

Point 4 学びの成果を資格で示す

農業土木学教育コース修了時

技術士補, 測量士補
2つの国家資格が取得可能

他にも在学中の民間資格取得実績多数

※2級ビオトープ管理士(H27,H28,H29), 2級日本農業技術検定(H28)

Point 1 社会に役立つ研究ができる

卒業研究で

✓ 地方自治体内の自然環境問題解決

✓ 研究所や民間企業との共同研究

にチャレンジできる!

Point 3 やって身につく実験実習が豊富

実験・実習科目が

10科目

フィールドサイエンスセンター(付属農場・演習林・練習船)体験演習, 環境土壌学実験,
フィールドサイエンス実習(農場実習), 測量学実習, 測量学演習, 公共事業インターンシップ,
CAD演習, 水理実験, コンクリート・土質材料実験, 農村ワークショップ運営実習
(その他, 生物資源学インターンシップも推奨しています。)



Point 5 学んだ専門を活かす就職

学部・大学院卒業後, 農業土木・土木系への就職が

95%以上

なかでも公務員への就職率は **約60%**

※公務員は, ほぼ農業土木・土木系の技術職公務員です。

3つの特徴的な取組

取組

日本技術者教育認定機構

JABEE 認定プログラム

農業土木学教育コースは, 大学以外の第三者機関(JABEE)に認定された教育プログラムです。体系的な専門教育を行い, その教育の質は公務員試験の合格率にも表れています。JABEE認定プログラムは国際的教育の同等性を有し, 国際的な技術者ライセンス取得にはJABEE認定プログラムの修了が原則必須となっています。

農業土木学教育コースは, 三重大学で唯一のJABEE認定プログラムです。

取組

2

徹底した現場主義

三重大学の農業土木学教育は, 約100年!以来, 徹底した現場主義の教育を行っています。
・豊富な実験実習科目群
・必修で行う公共事業現場へのインターンシップ
・座学の講義内でも企画される現場見学
・建設技術フェア等の見学による最新技術の学習
・国や地方自治体の課題も扱う卒業研究
コース担当教員が教育カリキュラム全体を通じて, 現場の課題解決を念頭に教育・研究しています。

取組

3

技術者へのキャリア教育

農業土木・土木は, 人々の生活や命に直結する仕事を扱います。そのために, 農業土木学教育コースでは, ポートフォリオによる技術者意識の醸成と, キャリア教育科目の履修を通じて生活や命を支える農業土木・土木職への就業意欲を高めます。
キャリア教育科目
・実践農業土木学(3年前期)
・農業土木キャリアアップ演習(3年後期)
・農村ワークショップ運営実習(3年後期)



現役の技術者の
講義もあり, 女性の
ワーク・ライフ
バランスの話も
聞けます。

専門科目カリキュラムの例

土木工学系科目は基礎科目から設定されており、物理未修者も安心のカリキュラムです。

1 年次 多角的な視野を養うために、生態圏の循環や気候変動など現在の地球環境の問題を俯瞰します。

2 年次 技術の柱となる専門の基礎を固める時期です。インターシップでの自己研鑽も推奨しています。

3 年次 専門の応用を学び、実験実習で身に付けます。キャリア科目で将来を真剣に考える時期です。

4 年次 大学院進学や就活に対応しながら卒業研究に取り組みます。

前
期

- ◎ 生物資源学概論
- ◎ 将来気候予測論



前
期

- ◎ 環境保全生態学
- ◎ 環境解析基礎I
- ◎ 環境解析基礎II
- ◎ 応用数学
- ◎ 基礎構造力学
- ◎ 基礎水理学
- ◎ 測量学
- ◎ 測量学実習
- ◎ FS実習（農場実習）

前
期


- ◎ 鉄筋コンクリート工学
- ◎ CAD演習
- ◎ 公共事業インターシップ
- 実践農業土木学
- 土質力学
- 農業情報ネットワーク
- ビオトープ論
- 応用水文学
- 地域社会論

前
期



後
期

- ◎ 生態圏循環学
- ◎ 地球環境学概論
- ◎ 環境系数学
- ◎ 環境情報学



後
期

- ◎ 環境解析基礎III
- ◎ 基礎土質力学
- ◎ 植物・土壌と水
- ◎ 水理学
- ◎ 環境土壌学実験
- 測量学演習
- 水環境工学
- フィールド地質学
- プログラミング

後
期

- ◎ 技術者倫理
- ◎ かんがい排水学
- ◎ 農村ワークショップ 運営実習
- 農業土木学キャリアアップ 演習
- 地域デザイン学
- 地盤・防災工学
- 農地工学
- 水利施設工学
- 土壌圏物質移動論

後
期



通
年

- ◎ FSC体験演習
- ◎ 共生環境FSセミナー

通
年

- 生物資源学インターシップ

通
年

- ◎ コンクリート・土質材料実験
- ◎ 水理実験

通
年

- ◎ 卒業研究

※ ◎は必修科目、○は選択科目を表します。選択科目は上記以外にも多くの科目が用意されており、自身で設定する目標に合わせて選択が可能です。

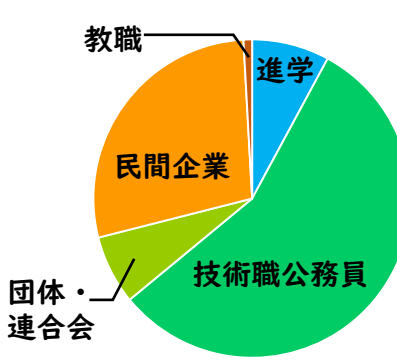
卒業研究の例

物理系から生物系、社会科学系、数値計算、室内実験、現地調査とやりたい研究がきっと見つかる！

- 多度地区の来訪者による景観評価
- ダムの耐震設計における等価線形化法の適用限界について
- ジオポリマーモルタルを充填した舗装路面の夏季における温度変化
- 荷重計および圧力センサーを用いたアンカーの荷重モニタリング評価
- ジオテキスタイルと貝殻を用いた地盤改良に関する研究
- ヒシ群落が農業用ため池の水質に与える影響
- 木曾岬町排水路における季節と環境に応じた魚類の生息場利用
- 石膏による管状孔隙モデルを用いた鉛直方向の水分移動について

卒業後の主な進路

農地の再編や自然災害の増加から農業土木・土木系業界の人材ニーズは高まっています。農業土木学教育コース卒業生は、農業土木・土木業界の第一線で、人々の生活や命を支えるためにやりがいをもって活躍しています。学生の努力とコース教育によって、ほぼ全員が希望の職種に就職し、高い満足度で卒業しています。



各学年を担任する
就学カウンセラー

農業土木学教育コースでは、コース選択者の希望進路がほぼ同じです。ですから、所属する研究室の垣根を超えて、同期の仲間同士で就活を支え合っています。また、就学カウンセラーを中心に、コース担当教員全員で情報共有しながら、進路のサポートを行っています。

- 最近の実績
- 技術職公務員：国家公務員総合職、国家公務員一般職、地方上級公務員、市町村職員
- 団体・連合会：水資源機構、土地改良事業団体連合会、農業協同組合、他
- 民間企業：鹿島建設、大成建設、清水建設、加藤建設、西松建設、奥村組、JR東海、東京メトロ、NTCコンサルツ、若鈴コンサルツ、玉野総合コンサルツ、八千代エンジニアリング、他
- 教職：志摩高校

目指せる資格

- ◎ 生物資源学部で取得可能な資格
 - ・高等学校教諭一種免許（理科・農業）
 - ・学芸員（国家資格）
- ◎ 農業土木学教育コースで取得可能な資格
 - ・技術士補（国家資格）
 - ・測量士補（国家資格）
- ◎ 農業土木学教育コースで取得が有利になる資格
 - ・技術士（国家資格）
 - ・2級ビオトープ管理士
 - ・土木施工管理技士（国家資格）
 - ・土地区画整理士（国家資格）
 - ・ダム管理技士
 - ・米国Professional Engineer
 - ・測量士（国家資格）
 - ・2級日本農業技術検定
 - ・土地家屋調査士（国家資格）
 - ・コンクリート技士
 - ・地質調査技士
 - ・IPEA国際エンジニア

農業土木学教育コースの+αサポート

農業土木学教育コースでは、国や地方自治体などの関連機関との連携協定を活用して、学生の社会貢献意欲や向学意欲を積極的に応援するためボランティアや連携機関の技術研究発表会聴講の紹介も行っています。

- ◎ 三重県農村災害ボランティア

三重県内で発生した自然災害で被害を受けた農地の測量補助のボランティア。講義で修得した技術を使った専門的なボランティアです。
- ◎ 農村環境保全活動ボランティア

東海地域の各所で行われている生き物調査や地域活性化イベントのボランティアです。



※ 他にも、連携機関内で行われる技術研究発表会への特別聴講もできます。

お問い合わせ先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
三重大学 生物資源学部 共生環境学科 農業土木学教育コース

☎：059-231-9570（学科事務室）

E-mail：chiiki-all@dobokupc4.bio.mie-u.ac.jp

URL：http://www.bio.mie-u.ac.jp/kankyo/chiiki/noudo/index.html